

平成26年度学校評価（前期）を振り返って

京都市立洛央小学校
校長 森 江里子

学校評価へのご協力ありがとうございました。

平成26年度学校評価（前期）の集計結果をお知らせします。

今回、児童（低、高学年別）、教職員、保護者の皆様による評価（振り返り）をアンケート形式でご協力いただき、保護者の皆様には全児童数の97%のご回答をいただきました。ありがとうございました。

保護者の皆様からいただきました評価と自由記述の総ての内容一つひとつにつきましては全教職員が目を通させていただきました。学校といたしましては、集計結果とともに、ご提案いただいた内容などを真摯に受け止め、次年度の本校教育活動の改善に繋げていくように活用させていただきたいと考えております。

「4」 そう思う 「3」 大体そう思う 「2」 あまりそう思わない 「1」 そう思わない

① 子どもに基礎・基本となる学力がついていると思われませんか。（保護者）

先生はわかりやすく教えてくれていますか（児童）

児童に基礎・基本となる学力がつくように指導していますか。（教職員）

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 30%	「4」 63%	「4」 86%	「4」 37%
「3」 59%	「3」 30%	「3」 11%	「3」 63%
「2」 10%	「2」 5%	「2」 2%	「2」 0%
「1」 1%	「1」 2%	「1」 1%	「1」 0%

高学年で93%、低学年で97%の児童が「わかった」と実感できているという結果が出ており、昨年度に比べると数値はさらに高まりました。また、保護者の方の89%の方が、学力がついていると思われている結果でありました。「わかった」と実感できていない児童の割合も減少しています。この結果から、今後も低学年の学習で、基礎基本の学習を大切に、確実な定着を図ること、また高学年でも基礎基本の定着から、発展的・補充的な学習を取り入れてより高い学力定着を図ることを継続していきたいと考えています。授業中の細かな観察や評価を通して、一人一人が主体的に学んでいるかを確認できるように心がけていきたいです。

⑤ 子どもが最後まで粘り強く学習する指導がされていると思われませんか。（保護者）

わからないことはそのままにしないで、わかるまでがんばっていますか（児童）

児童に最後まで粘り強く学習する指導をしていますか。（教職員）

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 18%	「4」 42%	「4」 56%	「4」 40%
「3」 62%	「3」 35%	「3」 32%	「3」 54%
「2」 17%	「2」 15%	「2」 7%	「2」 6%
「1」 3%	「1」 8%	「1」 5%	「1」 0%



保護者の方の「そう思う、大体そう思う」の評価は昨年度後期に比べ4ポイント減少しました。児童については、「わかった」「理解できた」という充実感を得ている子どもが、高学年で77%, 低学年で88%と、昨年度後期と数値はほぼ同じでした。保護者の方の「理解できた」という実感を得られにくくなっている様子が読み取れます。

もっと児童が主体的に学習に取り組めるような授業や教材研究の工夫を図るとともに、学習到達状況が十分でない児童に対しては、学習の定着のための取組や家庭学習の在り方についても働きかけ、学校と家庭とで連携をしながら取組を進めていきたいと考えています。基礎・基本の学習の定着を図るとともに、授業の中で子どもたちが達成感を味わえるような取組を増やすとともに、互いに認め合えるような学級集団へと発展させるように努力していきたいと考えています。

⑧子どもは将来の夢をもって学校生活を送っていると思われますか。(保護者)

将来の夢を持っていますか。大きくなったらこんな人になりたいと考えたことがありますか。(児童)

児童が自分の将来の夢をもって学校生活を送れるように指導・支援をしていますか。(教職員)

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 15%	「4」 79%	「4」 79%	「4」 25%
「3」 46%	「3」 14%	「3」 13%	「3」 69%
「2」 33%	「2」 5%	「2」 5%	「2」 6%
「1」 5%	「1」 2%	「1」 3%	「1」 0%

自分の将来の夢について「ある」と感じている児童が昨年度後期と比べて高学年で2ポイント、低学年で1ポイント増えています。どちらも90%以上の子どもが何らかの夢を抱いています。生活全般を通して、なりたい自分を探し、実現していこうとしている気持ちが現れているのだと思います。本校では学校教育目標の目指す子供像にも「大きな希望を胸に抱く子」と掲げています。教職員が授業場面だけでなく、学校生活のあらゆる場面で、児童が自分の夢を持ち、将来展望に繋げていけるような働きかけを積極的に進めていくことが大切であると思います。

⑨ 子どもは「たてわり活動」で助け合って活動できていると思われますか。(保護者)

「たてわり活動」では他の学年の人と助け合って活動できましたか。(児童)

児童が「たてわり活動」で助け合って活動できるように指導していますか。(教職員)

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 36%	「4」 57%	「4」 50%	「4」 43%
「3」 56%	「3」 34%	「3」 36%	「3」 57%
「2」 7%	「2」 7%	「2」 9%	「2」 0%
「1」 0%	「1」 2%	「1」 5%	「1」 0%

「たてわり活動」を通して異学年集団で協力し合い活動することで仲間意識を育てること、一人ひとりの児童が、学校の一員としての自分の役割を果たしていこうとする自覚を高めることを主目的として実施しています。低学年、高学年ともに児童が自分の役をしっかりと認識して、助け合うことができた実感できているようでした。ただ、昨年度後期に比べると低学年は5ポイント減少、高学年は91%で同ポイントでした。日頃行っている「たてわり清掃」などにおいて、低学年児童が意欲的にたてわり活動に取り組めるよう、高学年のリーダーシップ育成とともに低学年のフォロアーシップについてもしっかりと指導していきたいと考えています。



⑩子どもはあいさつを自分から言えていると思われますか。(保護者)

あいさつを自分から言えていますか。(児童)

児童があいさつを自分から言えるように指導していますか。(教職員)

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 26%	「4」 64%	「4」 58%	「4」 27%
「3」 50%	「3」 30%	「3」 29%	「3」 67%
「2」 23%	「2」 5%	「2」 8%	「2」 6%
「1」 2%	「1」 1%	「1」 5%	「1」 0%

高学年で94%, 低学年で87%の児童が自分から進んであいさつができていると感じています。昨年度後期に比べると高学年で2ポイント増加していますが、低学年で6ポイント数値が減少しています。今年から、毎朝、校門前で児童会の子どもたちがたすきをかかかけて気持ちよくあいさつをしてくれています。さわやかな一日のスタートを切ることができ、たいへんうれしく思っています。あいさつを交わすことは人間関係を築く第一歩であり、人と人との関係をより良くしていくためにも大切であることを、今後も学校と家庭とが協力して児童に働きかけていきたいと思っています。

⑫ 子どもはよくない誘いを受けたらはっきりと断れていると思われますか。(保護者)

よくない誘いを受けたらはっきりと断る勇氣を持っていますか。(児童)

児童がよくない誘いを受けたらはっきりと断る勇氣の大切さを指導していますか。(教職員)

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 23%	「4」 62%	「4」 68%	「4」 54%
「3」 56%	「3」 27%	「3」 21%	「3」 40%
「2」 19%	「2」 9%	「2」 7%	「2」 6%
「1」 2%	「1」 2%	「1」 4%	「1」 0%

よくない誘いを断る勇氣を持っている児童の割合は低学年ではほぼ同数、高学年は5ポイント増加でした。全ての児童が安心して過ごせる学校、教室という空間を作り上げるための努力を教職員全体で共通理解し、丁寧な指導を続けなければならないと強く思います。

規律ある態度や学校を出てからの遊び方についても指導を続けていくことの大切さを実感しています。児童一人ひとりの思いに寄り添った、教育実践を行うようにしていきます。

⑭ 子どもは、自分には良いところがあると思っていますと思われますか。(保護者)

自分には良いところがありますか。(児童)

児童が自分には良いところがあると思えるような支援をしていますか。(教職員)

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 35%	「4」 62%	「4」 65%	「4」 59%
「3」 55%	「3」 19%	「3」 22%	「3」 41%
「2」 9%	「2」 11%	「2」 6%	「2」 0%
「1」 1%	「1」 8%	「1」 7%	「1」 0%

児童の自己肯定感についての質問です。前期に比べると、高学年で6ポイントの増加、低学年では3ポイントの減少でした。児童によっては、自分に対してきびしい評価をもっていたり、目指す自分をよ

り高いものにしていたりする場合は数値が低くなることも考えられます。低学年においては十分理解しにくいこともあるかもしれません。しかし、高学年で6ポイントも増えていることは、とても嬉しいことです。認められている自分、人の役に立っている自分を実感できるような教育を目指していきたいと考えています。

また、自己肯定感に対する評価を下げている児童に対して学校生活の中で児童が自分のことをどう受け止めているのかを敏感に察知し、「自分を好きになれない子」を早期に見つけ、声かけや接し方を含め、自分を前向きにとらえることができるように適切に働きかけられるようにしていかななくてはならないと考えています。

後期の学習がはじまりますが、洛央小学校の子どもたちにとって「なりたい自分像」や「将来の夢」を語り合う機会をもつ中で、よりよい自分を目指し、さらに心を磨くことが大切ではないかと考えています。そして、友だちと助け合い、思いやりのある結びつきの強い集団へと高めていきたいと考えています。

今後も地域・家庭・学校との強い結びつきを大事にしながら学校教育を進めていきます。どうぞこれまでと同様、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

